

今こそ踏み出そう！地域包括ケアシステムにおける地域支援への第一歩

座長 谷元 広樹（嶺南こころの病院）

紅野 勉（医療法人 池慶会 池端病院）

2014年に地域包括ケアシステムの構築が推進され、現在2025年を迎えた。本政策は重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制であり、2040年にかけて人口構造の変化、医療・介護のサービス需要の偏重やニーズの多様化に伴い、さらなる進化が不可欠となる。協会では、第四次作業療法5カ年戦略に基づき、「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」のスローガンを掲げ、最上位目的のひとつである「それぞれの地域ですべての人の活動・参加を支援する作業療法」を達成するために、市町村に関わる作業療法士の配置など、作業療法士の地域支援への参画の拡大に向けた取り組みを推進している。このように、現在ポスト2025年に向けて、協会と士会が連携・協働を図りながら、地域支援に資する仕組みを強化している。しかし、協会会員の約60%は病院・診療所で勤務しており、地域という分野は馴染みが薄いのではないだろうか。そこで今回、地域で活躍する作業療法士の人材育成の入門編となるシンポジウムを企画した。シンポジストとして、県内で働く地域支援に携わる作業療法士に地域での働き方について講演いただくほか、ディスカッションや質疑応答を予定している。聴講者には、地域支援の基本的知識や作業療法士の役割、考え方などを学んでいただき、地域支援で活躍する作業療法士として第一歩を踏み出す契機としていただきたい。

◇シンポジスト



水上 保孝 氏

福井大学医学部地域医療推進講座 特命助教

「地域包括ケアシステムと協会および士会の取り組み」

地域包括ケアシステムは加速度的に進展し、国は次の大きな課題解決に向けた取り組みを始めている。私たちは、その動きを的確に捉える必要がある。今後の地域共生社会でOTの専門性を発揮していくロジックを皆様と考えたい。

【略歴】

- 2002年 福井医科大学（現：福井大学）医学部附属病院
- 2014年 四国医療専門学校 作業療法学科 専任教員
- 2015年 認定作業療法士取得
- 2019年 医療法人厚生会 訪問看護ひまわりステーション
- 2021年 医療法人厚生会 福井厚生病院 リハビリ課
- 2023年 福井大学大学院医学系研究科博士課程 統合先進医学専攻、地域総合医療学コース 修了、博士（医学）
- 2025年 福井大学医学部地域医療推進講座 特命助教



吉岡 恵美 氏

社会福祉法人 六条厚生会 障がい相談支援センターまるおか 相談支援専門員

坂井市 重層的支援体制整備事業 アウトリーチ支援員

「それ、作業療法士ができますと思います！」

坂井市において、市町（行政）の実施する事業であり、作業療法士の配置が標準ではないこの事業を担当しています。まさに作業療法士の活躍できるフィールドだと日々実感しているので、その一部を紹介します。

【略歴】

1998 年 神崎総合病院(兵庫県)
2000 年 福井県立病院 精神・神経センター（精神科作業療法）
2003 年・2007 年・2013 年 産休・育休取得
2014 年 福井県立病院 回復期リハ病棟配属
2017 年 有限会社 ケア・ユニット 認知症対応型共同生活介護
2019 年 社会福祉法人 六条厚生会 入社 精神科訪問看護事業部配属
2020 年 障がい事業部配属 自立訓練（宿泊型・通所型）施設 管理者
障がい福祉サービス管理責任者・相談支援専門員取得
2021 年 坂井市 重層的支援体制整備事業 アウトリーチ支援員



釣部 雄史 氏

公益財団法人 福井県健康管理協会 県民健康センター 所長補佐

「作業療法士の小さな一歩が地域を変える」

地域支援へ踏み出す第一歩は、地域を知り、人とつながり、専門性を伝え、生活に寄り添い、できることを広げながら自立支援・予防・多職種連携を行い、心身の健康と社会参加を支える重要な専門職である。

【略歴】

1990 年 福井総合病院
1994 年 (財)福井県健康管理協会
1998 年 介護支援専門員所得
2003 年 放送大学
2006 年 放送大学修士課程修了・養成校入学
2007 年 社会福祉士取得
2015 年 第 3 回福井県作業療法学会会長
2026 年 第 25 回東海北陸作業療法学会会長